

夏休日の芸術祭

in YOKOHAMA



実施報告書

2023年5月30日(火) > 6月4日(日)

10:00 > 17:45 *5月30日 13:00 開館 / 6月4日 14:00 閉館

神奈川県民ホール 第1展示室 & 第5展示室

1 開催レポート

横浜市は古くから芸術文化の発展振興に力を入れて来ました。中でもこどもの創作力向上には特に寄与しており、1965年から続く『横浜市こどもの美術展』は、毎年「応募作全てを展示、し続けており、市民の知名度、期待度は回を追うごとに上昇しています。

「芸術文化活動を通じて美しい未来を創る、という企業理念を実現するため、国民みらい出版は2013年に「こどもの未来をつくるプロジェクト」を立ち上げ、『美術ぷらす展』をスタート。こどもの城（東京都港区）、五稜郭タワー（北海道函館）、チカホ（札幌駅地下道）、そして横浜で5回目を迎えました。

「こどもの未来をつくる」という目的に加え、世界情勢を鑑みた今回は「平和祈願」と「国際交流」をテーマに、芸術・文学による平和への願いを届けることとなりました。

山下公園に面し、潮の香りが届く複合文化施設として知られる神奈川県民ホールを会場に、地域のにぎわいをつくり出す目的で発足した神奈川県の文化プログラム「マグカル」にも参加しました。

会場は広々と美しく、一階と地下が吹き抜けになった開放的な空間で、いかに混雑しても鑑賞しやすい家族連れ対応の施設です。

今回は横浜市立元街小学校と同北方小学校と一般財団法人言語交流研究所ヒッポファミリークラブの協力で、過去のぷらす展以上にこどもたちの参加が増加しました。加えて、横浜に避難しているウクライナのこどもたち、ウクライナ在住のこどもたちから協力がありました。

現地のこどもたちは、不条理な戦争被害に巻き込まれながらも、辛く暗い日常に屈することなく、世界平和と生命のメッセージが込められたポジティブでハイレベルな作品を届けてくれました。作品の一点一点からこどもたちの魂の波動が力強く放射され、鑑賞者の心を揺さぶり続けました。

私達は、これらの作品を扱うことで、安全な場所から同情の涙を流すことが軽薄な行為であることを思い知らされました。

2 来賓のメッセージ

6月3日、開催記念セレモニーにはウクライナ人出展児童の保護者を中心に出席者、関係者にご参加頂き、ご挨拶のほか、平和祈願だるまの目入れによる願掛けを実施致しました。以下に各ご挨拶の一部を抜粋して紹介します。

【横浜市国際交流協会理事長の小野信之様】

本日この美術展を見させていただきましたが、本当にウクライナの子どもたちが思ったより明るさを保っていることがうれしいなと思っています。本当は大変悲しい思いをしたり、傷ついたりしているのだと思います。でも子どもたちの祖国を愛する気持ちや家族に対する思い、それから平和を願う気持ちは作品のなかから伝わってきます。私は芸術やアートというのは国籍や民族、あるいは言葉の壁を越えてメッセージを伝え、心を通わせる大切な営みであると感じております。本日のような機会を与え



てくださった皆さまに本当に感謝し、これからもアートを通して国際交流をはかり、また人と人との交流、そして子どもたちを健全に育てていくことを続けていただきたいと心から願っています。

【横浜市立元街小学校校長 工藤雅彦様】

本校は中華街や開港当時より外国人の居留地として栄えてきた西洋館の立ち並ぶ山手地区が学区であり、外国籍や外国につながる児童が全校児童の5分の1に当たる約100名が在学しています。昨年度はウクライナやネパールの児童も本校から卒業していきました。



【横浜市立北方小学校校長の伊藤洋子様】

やはり、子どもたちの作品を見ると、私は元気になります。それは、作品に、子どもたちの生命力が溢れているからだと思います。子どもたちは、日々、様々な、人やもの、出来事と出合います。この出会いを通して、心が動き、心が磨かれ、成長していきます。子どもたちの作品は、この出会いの一瞬一瞬を切り取って、思いを込めて描かれています。だからこそ、作品一つひとつに、子ども一人ひとりの生命力が溢れ、その生命力に触れて、私の心が元気になるのです。



【ウクライナからのお礼の言葉】

ここにお集まりいただいている方々だけではなく、日本全国の日本人に感謝をしたいという気持ちだけは皆さんに伝えたいです。避難民として日本にきて、衣食住や子どもたちの学校のサポートに至るまで、他の国では考えられない日本ならではの心遣いに感謝いたします。三人の子どもたちも安心して暮らせる環境づくりをしていただき本当にありがとうございます。



【オクサーナ・ビスクノーワ様】

私はこの一年で4回くらいウクライナに帰っています。日々、状況が変わっていくのを自分の目で見ないとダメだ、という思いが強かったからです。毎回キーウ周辺にあるブチャ市には必ず行きますが、皆さんも去年4月頃にはブチャという言葉聞いたことがあると思います。約1ヶ月占領されていて、その間非常に多くの殺害や暴動が行われ、悲しいことで有名になりましたが本来はとても美しい町です。去年の夏ぐらいにウクライナに行ったときには、まだ破壊された町という印象が強かったのですが、今はすっかりきれいになっている姿を見るとここはもう占領されていないんだな、と非常にうれしい思いでした。そして子どもたちもほとんどの住人も家に戻っています。今も空襲警報は毎晩のように鳴り響いているのに、



子どもたちには笑顔があります。その笑顔で私の方が励まされて、この町で強く生きていくんだという印象を受けました。

今回は芸術学校のような、子どもたちが音楽を学んだり、お絵かきを習ったり、踊りを習ったりするいくつかの教室が集まった施設に行きました。去年は窓ガラスが全部割られて、破片やら大きなダメージが残っていて、子どもたちが使っていた楽器やパソコンとかも全部盗まれている状況でした。ロシア系はこういった略奪行為で有名な国でもあるので、そこに戻った子どもたちは何もできない状態だったのに、今年の5月には窓もきれいになって、なんとたくさんの方々の支援で楽器もそろい、子どもたちが素晴らしいコンサートを開いたのです。そして絵の教室も20～30人くらいの生徒がいて一生懸命絵を描いていて、今回別のプロジェクトで行ったのですが、集まった子どもたちの絵を見て感動して、お借りした作品をこの展覧会で展示しています。ウクライナがんばれとか、早く平和が戻ってほしいとか、前線で戦っている兵士を応援するようなメッセージが込められています。是非、皆さんにも一つひとつのメッセージを見ていただきたいです。

【出展者代表として向山忍舟様】

三年以上のコロナの影響で、見るという目の鑑賞をかなり滞って、これからの事が少々不安でしたが、本日目に入ってくる作品にひとつひとつ感動致しました。とてもうれしかったです。さらに小学生、ウクライナの皆さんの作品を目の前にして、こんな素晴らしい前途ある芸術を破壊する行為があるかと思うと胸のつぶれる思いです。何ら手助けできないジレンマがありますが、皆さんの作品に触れて心から平和への願いを強く致しました。

【主催者代表 小林義隆】

ご承知の通り、日本でも2020年から続いた新型コロナウイルス感染症に伴うイベントの自粛要請に加え、昨年2022年から始まったロシアによるウクライナ侵攻で、世界的にも社会情勢が不安定になる中、こうしたアートイベントは後回しにされてきました。それでも、平和を訴え子どもたちに明るい未来が待っているとメッセージを発し続ける義務があるとの思いで本展を開催することとなりました。皆様には、子どもたちが制作する過程で感じた喜びや楽しさ、そして平和への願いが詰まった作品をご覧いただき、彼らの未来に対する思いを感じ取って頂くことを期待しております。

【メディア掲載・報道】

5/19 神奈川新聞にて開催告知記事掲載

5/30 tvk(テレビ神奈川)の18時のニュースにて紹介

6/1 神奈川新聞にて出展したウクライナ人家族の記事掲載



3 開催概要

美術ぶらす展 in 横浜

| | |
|-------|---|
| 会 期 | 2023年5月30日(火)～6月4日(日) |
| 開催時間 | 0:00～17:45(初日13:00～、最終日～14:00) |
| 会 場 | 神奈川県民ホール 第1展示室、第5展示室 |
| 展 示 | 下記参照 |
| 入 場 料 | 無料 |
| 主 催 | 美術ぶらす展 in 横浜 実行委員会 |
| 企画運営 | 株式会社国民みらい出版 |
| 後 援 | 在日ウクライナ大使館、神奈川県、公益財団法人横浜市国際交流協会、tvk(テレビ神奈川)、毎日新聞横浜支局【順不同】 |
| 協 力 | 一般財団法人言語交流研究所ヒッポファミリークラブ |
| 広報活動 | マスコミ各社にプレスリリースを配布 |
| 募 金 | 138,428円(横浜市の「ウクライナ避難民支援募金」に全額寄付済) |

4 展示構成

絵画および平面作品

油彩画、アクリル画、水彩画、日本画、水墨画、ヒーリングアート、メッセージアート、イラスト、針穴写真、書道

立体および工芸作品

モダン・うるし・アート、染色、刺繍、パッチワーク、ちりめん細工、人形、ジュエリー、ペーパークラフト、レジンアート、竹姫灯籠、繋ぎ和紙折り鶴、大麻飾り、津軽こぎん刺し、カービング、フラワーデザイン、いけばな

文学作品

俳句、短歌、川柳 - 平和祈願相州だるま(神奈川県伝統工芸品、ウクライナの国旗色のツートンカラー仕様、前面に作品、背面に平和祈願の文字)

現代詩、エッセイ、哲学、図書

●その他の展示物

ウクライナの子どもたち

①横浜に避難している子どもの絵画(日本の子どもたちとの共作含む)

②オクサーナ氏が5月にウクライナのブチャ市で預かったブチャ市立レヴコ・レヴツキ記念児童芸術学校の子どもたち

③ウクライナに留まっている子どもたちの絵画

一般財団法人言語交流研究所ヒッポファミリークラブの子どもたちの絵画





